

取組主体の概要

- ・所在地：広島県北広島町吉木
- ・取組主体：吉木スマート農業推進協議会
(令和5年3月17日設立)
- ・構成員数：12名（農業者5名・地域住民7名）

導入技術

- ・(株)farmo社製の自動給水システム

水位・水温センサー及び給水ゲートの特徴

- データ通信料などのランニングコストが不要
- 水位・水温センサー、給水ゲートの設置が容易
- 携帯電話でいつでも水位・水温を確認可能
- 水位・水温データがクラウド上に保存される
- 携帯電話で遠隔地から給水ゲートの操作が可能



自動給水システム設置圃場の確認作業



自動給水システム（給水ゲート設置）

導入経緯

- 中山間地域に位置する当該地域は、大型農家が100枚～150枚程度の圃場を管理しており圃場の水管理に多くの時間と労力を要していた。
- 令和4年度に水管理作業の省力化を目的として自動給水システムを10基導入して実証実験を行った。導入効果が高いことから、令和5年度は34基設置して実証実験を行った。
- 令和6年度も実証実験を継続して行う。

取組の特徴・効果

【特徴】

モデル地域の大型農家（5事業体）と地域住民が協議会を設立し、農協、行政と連携してスマート農業技術の導入による中山間地域の農業が抱える課題解決に取り組んだ。

【効果】

● 圃場の水管理作業の省力化

大型農家Aの場合（6月から8月の巡回日数）

- ・自動給水システム未設置圃場 34日
- ・自動給水システム設置圃場 20日（約4割減少）

● 遠隔操作による圃場の水温管理

気温が高い日は遠隔操作により強制的に給水することで水温を下げ高温障害を未然に防止できた。

● 米生産農家の生産意欲の向上

自動給水システムを設置することで圃場の水位を一定に管理することが可能となるため、水稻の直播栽培による生産コストの削減に向けた実証実験を行うこととした。